

**第2回佐賀県西部広域環境組合
ごみ処理施設建設委員会会議録**



平成21年 8月 7日 15:00～17:00

佐賀県西部広域環境組合

第2回佐賀県西部広域環境組合ごみ処理施設建設委員会			
日 時	平成21年 8月 7日(金) 15:00~17:00		
場 所	武雄市役所 3階会議室		
委 員	区 分	氏 名	出 欠
	伊万里市 副市長	前田 和人	出
	武雄市 副市長	古賀 滋	出
	鹿島市 副市長	出村 素明	出
	嬉野市 副市長	古賀 一也	出
	有田町 副町長	江崎 幹夫	出
	大町町 副町長	西依 和則	出
	江北町 副町長	横町 晃義	出
	白石町 副町長	川崎 啓義	出
	太良町 副町長	永淵 孝幸	出

佐賀県西部広域環境組合	事務局長	井関 勝志
	事業係長	加々良 俊文
	事業係主査	古賀 正太
財団法人日本環境衛生センター西 日本支局	環境工学部部長	岩永 宏平
	環境工学部建設技術課課長代理	古保里 俊夫
八千代エンジニアリング株式会社	環境施設部技術第二課課長	松本 良二
	環境施設部技術第一課主任	清野 昭則

第2回佐賀県西部広域環境組合ごみ処理施設建設委員会

平成21年 8月 7日(金)
午後3時00分 開会

【1】 開会

【2】 協議・報告事項

- (1) 検討内容とスケジュールについて
- (2) 第1回・第2回検討部会での主な検討内容及び結果
- (3) 処理システム・処理方式の選定方法
- (4) 処理システム・処理方式の一次選定
- (5) 二次選定に向けたプラントメーカーへのアンケート調査

【3】 その他

【4】 閉会

【1】 開会

- 事務局長より開会
- 委員長の挨拶
- 白石町川崎副町長が今回から出席することを報告
- 白石町川崎副町長のあいさつ

【2】 協議・報告事項

(1) 検討内容とスケジュールについて

検討内容とスケジュールについて説明。また、メーカーアンケートの回答の関係でスケジュールが変更となる可能性があることについて説明。

(2) 第1回・第2回検討部会での主な検討内容及び結果

第1回・第2回検討部会での主な検討内容及び結果について説明を行い、詳細につ

いては、(3) 処理システム・処理方式の選定方法、(4) 処理システム・処理方式の一次選定の項目で行う旨説明。

(委員長) この後 (3) 処理システム・処理方式の選定方法、(4) 処理システム・処理方式の一次選定の項目で詳細な説明が出てくるので、続けて説明していただいて後で質問を受けるということによろしいか。

(委員) 了解した。

(3) 処理システム・処理方式の選定方法

処理システム・処理方式の選定方法について説明。

(委員) 一次選定、二次選定と分けて評価する必要があるのか。一次選定段階で検討を終了することはせず、すべての方式について、二次選定の評価項目まで検討してから判断してもよいのではないか。

(事務局) 指摘いただいた事項は、検討部会でも議論があった。「ごみは毎日出てくるもので、それを確実に処理処分するのが行政の役割であり、机上の検討や可能性だけで検討するのは非常に危険である。ごみ処理の原点は、衛生的に処理し、毎日対応していくということであり、確実に処理できる見通しがあるという前提で、環境性、経済性等を比較して結論を出していくべきではないか」等のご意見があった。よって、必須条件をクリアできるという確認の基に次の議論を進めていきたいということで、一次選定の評価項目が出されたという経過である。

●評価は一次選定、二次選定の2段階方式で行い、一次選定をクリアしなかった処理システム・方式については、二次選定を行わないことが確認された。

(4) 処理システム・処理方式の一次選定

処理システム・処理方式の一次選定について説明。

- (委員) 燃料化システムの実績の有無のところ、稼動トラブルがあった旨の記載があるが、具体的にはどのような事例か。
- (事務局) R D F 化施設で 2 0 0 3 年にトラブル事例があり、それ以降 R D F 化施設は採用されていない。また、炭化方式については、検討部会では、最終生成物の受け入れ先へのアンケート結果で、条件付であれば可能性はあるという評価がされたが、2 0 0 t / 日程度の規模の実績がないということで、実績の有無で問題があるという評価であり、最終的な評価としては二次選定に進むことは難しいという方向性が示された。
- (委員) 現在稼動している炭化施設の規模を当組合が想定している 2 0 0 t / 日程度にスケールアップするとどうなのか。スケールアップは一般的にどの程度が許容範囲といわれているのか。
- (事務局) スケールアップは、一般的に 2 倍くらいまでなら計算上可能であるといわれている。現在稼動している炭化施設の最大規模は 7 0 t / 日であるが、この施設では、技術的に中核を担う熱分解装置において、トラブルが起きたということが新聞等に出ていた。なお、国内の実証プラントは 2 0 t 以下であり、過度のスケールアップは、リスクが伴うということはいえる。
- (委員) 燃料化システムは、最終処分場の容量が小さくて済む等、将来的な方式としては有望で魅力的なところはある。
- (委員) 燃料化システムについては、クリアしなければならない課題も多い。ごみ処理施設に求められる処理の確実性から、一次選定で外すことが妥当と考える。
- (委員) 異議なし。

- 「燃料化システム(RDF化方式、炭化方式)」は、一次選定で評価を終了することとされた。
- 「埋立処分システム」、「セメント原料化システム」、「スラグ化システム」は、二次選定へ進むこととされた。

(5) 二次選定に向けたプラントメーカーへのアンケート調査

二次選定に向けたプラントメーカーへのアンケート調査を行っている旨報告説明。

- 報告事項であったため、決定事項はなし。

【3】その他

【4】閉会